



Japan
Jenaplan
Association

vol.36 2019. 9月号

一般社団法人
日本イエナプラン教育協会
ニュースレター

 Contents

1. イエナプランナーの仕事
：違いを乗り越え共生意欲をもつ人を育てる（特別顧問 リヒテルズ直子）
2. 第4回全国大会報告
3. 新理事・事務局紹介
4. 旧理事・事務局よりメッセージ
5. 支部報告

イエナプランナーの仕事：
違いを乗り越え共生意欲をもつ人を育てる
～つながり、つなぎ、つながることの豊かさを体現する～

特別顧問 リヒテルズ直子

今年2019年は、これまでの長い準備期間を経て、いよいよイエナプラン教育が日本に根付き芽を吹き始めた年、いわば日本の「イエナプラン元年」とも言える年になりそうです。同時に、急速に日本の教育界にイエナプランへの関心が広がり、すでにイエナプランナーとして活躍している人たちへの注目度も上がり、行動や態度が改めて試される時期に来たとも言えるでしょう。地球規模での人々の「共生」を目指したイエナプラン教育の担い手として、私たちが目指すイエナプランの理想を、行動においても体現できているかを見直し、改めて襟を正して日本におけるイエナプランの発展のために取り組んでいくという覚悟を決める年もあるかもしれません。イエナプランは、子どもたちにつながることの大切さ、つながりが生む成果の豊かさを教える教育です。そのために、私たち自身が、お互いを尊重し合い、つながり、その強さを見せていくことが大切です。

イエナプラン元年

周知のように、今年の4月、長野県南佐久郡佐久穂町に待望の日本で第1号のイエナプランスクール、学校法人茂来学園大日向小学校が開校しました。地域の人々や教育行政関係者への説得を含む、長い慎重な

準備期間を経て開校となった同校には、全国から、予想を上回る70名の小学生が集まり、素晴らしい自然と豊かな社会環境の下で、イエナプランの理念に基づく学びを始めました。

長く、イエナプランという名前が持つ「外来もの」の響き、異年齢学級の経験の少なさなどが、日本におけるイエナプラン導入に対して、心理的にも制度的にも障害になっていたと思います。しかし、時代が求めている教育のあり方に大きな示唆を含む理念として、いよいよ日本の教育改革にイエナプランが大きな役割を果たす時期がやってきた、と感じています。どれもこれも、同校の開校のために並々ならぬ努力を重ねてきた皆さんのおかげだと思っています。

同校開校のニュースは日本各地の教育関係者にも急速に広まり、昨年晚秋あたりから、自治体レベルで公立学校にイエナプランを取り入れようとする動きが俄かに活発になってきました。広島県では、早速、福山市で2022年に日本で初めての公立イエナプランスクールを開校する予定であることを発表し、着々と準備が進んでいます。また、名古屋市は、公立学校改革への市長の意気込みに乗じて、教育センターが中心となり、今年のオランダでの夏季研修に12名の教育行政関係者及び教員の方々が参加しました。教育学で有名な筑波大学のお膝元のつくば市では、教育大綱作成のヒントとしてイエナプランを参考にし、関係者のオランダ視察が行われています。

大日向小学校の開校のニュースが種々のメディアで取り上げられると同時に、オランダにも、以前に比べてずっと頻繁に取材やインタビューの問い合わせがくるようになりました。恒例の今年の夏季研修には中日新聞の記者が密着取材し、研修後早々、イエナプランをテーマとした連載記事が始まっています。NHKは不登校問題に合わせてオランダのイエナプランを紹介、東海テレビも、名古屋市における教育改革の動きを、イエナプランを中心にして取り上げ、特別番組で放送しています。大変喜ばしいことです。

協会組織の再編成と「イエナプラン実践ガイドブック」の刊行

しかし同時に、イエナプラン教育への関心が急速に広がる中で、だからこそ、心して今後の取り組みをしていかなければならないとも感じています。一つは、これまで、イエナプランへの少数の賛同者がボランティアで担ってきた協会活動を、これからは、単に会員へのサービスとしてだけではなく、協会外部の人たちに対しても、透明性の高い民主的で責任ある組織として再編する必要が出てきたことです。無論、協会の設立以来今日まで、イエナプラン普及のためにありとあらゆる煩雑な仕事を担ってくれた方達の尽力は筆舌には尽くしがたいもので、それなくして今日の日本のイエナプランはなかったと思っています。しかし、年々、イエナプランへの関心が高まる中、誰もが、主体的に参加できる団体として今後も持続性の高い組織として存続させるためには、理事を選挙制にして、多くの人に向けて開かれたものとし、外部に対して、民主的で透明な団体であることをマニフェストしていく必要があります。今年初めて行われた理事選挙は、そうした理由により行われたものです。

理事の仕事は、他の会員から選挙で選ばれた代表として、協会の方針を決めていくことです。これまでの流れを踏襲しつつも、何か新しいアイデアを提案したり、何らかの対応を要する事態が起きた時に、それに応じられるだけの透明で開かれた組織を作っておくことは、今後ますます重要になっていくことでしょう。

懸念の第2点は、イエナプラン教育への知識や情報量がバラバラで、ともすれば、お互いの間に、イエナプラン教育への理解を巡って、無用な摩擦が生じているのではないかと考えられたことです。

2011年以来すでに春と夏の短期研修に参加した人の数は述べ300人に上り、2017年の3ヶ月間に渡る日蘭イエナプラン・アカデミーの専門教員研修への参加者も12人います。こうしてオランダで学んだ人

たちの知識や経験はかけがえのないものです。しかし、他方、オランダで研修を受けてきた人たちが、「オランダではこうだ。」と、全てオランダで起きていることを無批判に受け入れ、それによって、あたかも自分自身がオランダのイエナプランナーになったかのような態度で日本の人々に接することは間違っているとも思います。むしろ、オランダで見てきたこと、それをきっかけに日本の教育について見直してみる必要を感じたことなどを元に、オランダに行かなくても現場でイエナプランの理念やそれに近い考え方をもとに授業の改善努力をしてきた人たちと、積極的に共に手をつないでいって協働の努力をして欲しいと思います。

無論、オランダ研修への参加の有無を考慮せずとも、イエナプラン教育への理解に個人差があることは避けられませんし、皆が同じ見方をする必要もありません。お互いの見方・考え方の違いは、率直な意見交換が続けられる限り、より深い理解を導く豊かさであるに違いありません。けれども、無用で瑣末な意見の対立を避けるためにも、最低限、これだけは共有して欲しいという知識はあり、それについてまとまった共有情報があれば、「日本型」のイエナプラン教育を皆で発展させていく上での土台になると考えました。それが、この夏、『今こそ日本の学校に！イエナプラン実践ガイドブック』（教育開発研究所）を刊行した理由です。皆さんには、ここに書かれた内容を共有していただき、その上で、活発な議論やフィードバックを通して、日本型のイエナプラン教育、また、それぞれの現場におけるイエナプラン教育を、独創的に力強く築いていって欲しいと思います。

注目されるイエナプランナーたち

教育界や自治体レベルでイエナプランが注目されれば、これまで、地道に自分でイエナプラン教育を勉強してきた方や、一人で現場の改革に取り組んできた方達にも注目は集まり、同時に、今までやりにくかった実践を展開していく可能性も広がっていくことだと思います。大変喜ばしいことです。これまでに撒かれたタネが、いよいよ芽を吹き、成長していく時代がやってきました。

ですが、どんなブームにも、マスメディアは、初めは注目しても、しばしば、反論や批判も引きついでいきます。今だからこそ、イエナプランナーを自認している人たちの言動は、ますます社会の目に晒され、思わずところで言葉尻を取られたり、批判の対象となることも十分に考えられます。

やっとここまで日本におけるイエナプランの成長を無駄にしないためにも、私たち自身が、イエナプランの精神をどれほど体現しながら行動できているかを、一度立ち止まって一人一人見直してみる時期に来ているのかもしれません。わたしたちは皆、ともすればイエナプランがまさしく批判している「非人間的で」「共生よりも競争に傾いた」学校教育を受けて育ってきています。知らず識らずのうちに自らの中に染み込んでしまった意識やメンタリティが、時として、イエナプランナーとしてはいくらか矛盾した行為につながってしまうこともあるのです。それは、すでに20年以上オランダに暮らしている私自身にも起きることです。

これまで日本に多く存在した競争型教育をベースとした学校には、「なんでも自分一人でやらなければならない」「人より多く努力をして人より抜きん出なければならない」「非の打ち所のない仕事をしなければならない」「誰かに頼ってはいけない」「何かわからないことがあったり助けが必要でも、簡単に誰かに助けを求めるのは弱い証拠だ」といったメンタリティが優勢です。それが嫌だと思っていても、知らず識らずのうちに、私たちの中に、そうした価値観が刷り込まれています。しかし、こうしたメンタリティに、イエナプランは相入れません。

イエナプランは、「多くの多様な人が集まるからこそ、一人ひとりの力ではできない大きな仕事ができる（10人の力はひとりの力の10倍ではなく、それ以上のことができる）」「努力も必要だが、遊んだり催したりすることで他者とともに人生を楽しみ共感を育てることが人間の成長のためには大切だ」「自分一人で非の打ち所のない仕事をしても、複数の人の協働による仕事にはかなわない」「自分にできることを社会に提供し、自分にできないことを社会にいる他の誰かに期待することで、ともにお互いを尊重し合いながら生きることを学べる」「人にはわからないことやできないことがあるのは当たり前で、そういう時は自分から進んで他者に助けを求めていい。それが、自分の力を知り、他者の力を尊重することにつながる」と考えます。

さて、皆さんは、本当に、イエナプランナーとして行動できているでしょうか。

特に、早くからイエナプランナーである人は、新しくイエナプランに感動し実践したいと言ってくる人たちに、心を開いて自らの知識や経験を共有しているでしょうか。オランダで研修を受けてきた人たちは、つい思わず、聞かれもしないのに、行ったことのない人に、不公平にも「オランダではね、、、」という言葉を使い、溝や壁を作ってはいないでしょうか。

早くから学んでいる人も、最近イエナプランを知った人も、オランダで学んできた人も、日本で地道な勉強を続けている人も、皆、イエナプランに魅せられ、それを通して子どもたちに、人と繋がり社会に貢献する人間になって欲しいと思っている、全く同等なイエナプランナーです。日本型のイエナプランをこれから発展させていくためには、まだまだ賛同者の数は足りず、このような些細な違いでお互いを排他しているゆとりはありません。皆がゆるく繋がり、知恵を寄せ合い、経験を共有して、お互いにフィードバックをしながら、日本のイエナプランを創造的に建設して行きたいものです。

イエナプランは、何度も言いますが、子どもたちに、共同体として、お互いがつながり合うことを学ぶように学校での活動をデザインしています。子どもと保護者と教員とが皆で一つの共同体を作り、そこに、未来に描く「理想の市民社会」を先取りして実現しようとするのは、やがて、子どもたちが大人になったときに、本当の社会を理想の市民社会に近づける努力をしてくれるようになるためです。

イエナプランの学校に通ってくる子どもたちは、そこにいる大人たちが、イエナプランナーらしく行動してくれることを待っています。それは、お互いを尊重し合い、お互いの言葉に真摯に耳を傾け合う人間関係に根ざすものです。イエナプランナーである教員や保護者が、建前と本音を使い分けることなく、また、役割期待に沿った行動だけを取るのではなく、真正なあるがままの自分として、超えがたい違いを両方から乗り越え、つながることが困難な相手をも排除することなく尊重し、真摯に、また、謙虚に自分の考えを相手に伝える努力をしているかどうかが、今後ますます問われていくことでしょう。

「落とし穴」に陥らないために

私たちが、知らず識らずのうちに、古い学校教育の中で身につけてしまった競争心や一人勝ちのメンタリティは、自分でも思わぬところでふっと顔をのぞかせるものです。それは、私自身にも今でも起きることです。よほどの謙虚な気持ちと、自分自身を変えようとする努力なしには、自信をもってイエナプランの指導者として子どもたちの前に立つことはできないでしょうし、場合によってはマスメディアの批判に足をすくわれてしまうことさえ起きてしまうでしょう。今ほど、イエナプランナーの結束が問われている時はありません。

では、具体的には、どうすれば、こうした「落とし穴」に足を取られずにいられるのでしょうか。

この時期にあたり、リーン・ファンデンヒューヴェル先生のスクールリーダーシップの研修での学びをもとに、以下のことを、イエナプランナーの心がけとして提案したいと思います。参考にしていただければ幸いです。

1. 同僚や保護者との壁は、自ら進んで除くための工夫をし、信頼関係の建設に努力をすること

信頼関係は、双方向のものです。信頼関係を築けない相手とは、相手の非をあげつらうのではなく、自らが信頼に値する存在であることを、自分から進んで示していくことが必要です。そのきっかけとして、イエナプランは遊びや催しを共有することの大切さを説いています。どうか、進んで、ともに遊び、ともに笑い、ともに喜びや悲しみを分かち合う機会を作り、お互いに、明確で率直なコミュニケーションができるように努力をしてください。相手を傷つけない遊び心と、皮肉ではない真のユーモアは、とても大切です。

2. 他者の言葉や行動を先入観を持たずによく観察すること

自分自身を理解してくれないと思う同僚や保護者に対しても、決して、その人の言葉尻やある特定の行動だけを見るのではなく、その人の様子を一度裸眼に戻ってよく観察して、何がしたいのか、何を考えているのか、どこかに共有できるものがないか、と考えて行為するようにしてください。思い込みは重なるとともに不信の原因となります。ハッとするような言動が起きた時には、自分の解釈を優先せずに、率直に「なぜそうしたのですか？」と相手に問える関係を維持してください。

3. 大きな枠組みの中で考えること

イエナプランのために参画している人たちは、皆、20の原則に書かれていることに同意しているはずです。その確信を揺らがせることなく、また、20の原則を自分だけのものにしようとせず、もう少し大きな見方で、お互いの行動を受け入れあい、リフレクションできるようにしましょう。不快だと感じた他の者の言動に対しては、率直に自分の不快感とその理由を伝えるようにしましょう。そのためには、自ら積極的に対話に入る姿勢が必要です。

4. 自分の考えを相手に正しく伝え、オープンで透明な関係を維持すること

不信の背景には、必ず、コミュニケーション不足が存在します。これも、日本人特有の習いで、「思いやり」や「推測」を期待するあまり、自分の方から進んで「私はこのように考えているのだけど」と相手にコミュニケーションする努力を怠ることがよくあります。けれども、黙って相手に自分の考えを分かってもらうことを期待しているだけではお互いに理解することはできません。考えていることを、ただ乱暴な言葉や短い表現で放りなげのではなく、相手の立場に立って、正しく伝える工夫と努力をしてください。伝えたい、という熱意は、それだけでも相手を動かすものです。

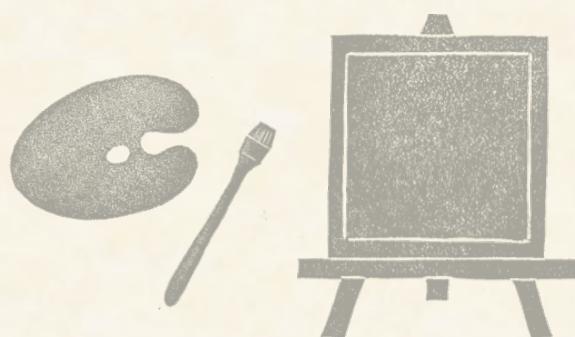
また、相手にこうしてほしい、と思うときには、自分にそれができているかどうかを見直してみましょう。「人の振り見て我が振り直す」は日本人の知恵です。そして、どうしても何かを相手に伝えたいと思うときには、まず、相手の言動に3つ、ポジティブなところを見つけてそれを伝えましょう。それから、一つだけネガティブに受け止めていることに対して、「こうしてもらえるとうれしいのだけど」と、アドバイスやヒントの形で伝えるようにして下さい。子どもたちと話す時と同じです。

5.自分が言っていることは行動として示すこと

何か意見を言うときは、「あなたが、、、」と言う主語では無く、「私は、、、」と言う主語で話しましょう。前者を主語にすると、一方的に相手の行為の意味を決め付け、場合によっては相手を批判したり、相手への敬意を持たない発言になります。後者を主語とすると、自分の考えを伝えることに徹することができ、相手に対してより慎重で敬意ある言葉を発するようになります。大切なのは、自らが正しいと信じ、他者に対しても説得していることは、それを自ら実行できて初めて、誰の目にも信頼に値するものになるということです。変わり、学び続けなければならないのは、相手ではなく、自分自身であることを常に心に命じてください。

あえて、苦言にも近いことを多く述べてきました。でも、イエナプランナーになるには、自らが変わる覚悟が必要であるのです。そして、他者の存在を受け入れインクルーシブに生きることなしに、「イエナプランナー」を名乗ることはできないとも常々思います。他者もまた、学び変わり続けている存在であるということを尊重しましょう。今というこの時期、イエナプランへの注目度が高まっているこの時期に何よりも大切なのは、イエナプランの理論がどうだとか、学校がどうだとかということ以上に、「イエナプランナー」を名乗る人たちが、どれほど真にお互いを尊重しあい、お互いを必要としあって働いているかということに尽きます。

自ら進んで人とつながることができる人こそが、人と人とをつなぐ仕事、子どもたちに「つながることの豊かさ」を教えることができる人です。



第4回 全国大会@長野 (2019.7.27)

テーマ『イエナプランと遊び』

2019年7月27日（土）、第4回となる日本イエナプラン教育協会全国大会を開催しました。会場は長野県南佐久郡佐久穂町にある学校法人茂来学園大日向小学校。今年4月に開校したばかりの、日本初のイエナプランスクールです。長野県内だけではなく全国各地から120名を越す多くの参加者がありました。

今回のテーマは、「イエナプランと遊び」。イエナプランの大事な活動の一つである「遊び」について、ペーターセンの思想や、実践報告を通して、そして実際に皆で遊んでみて、その意味をもう一度考えてみよう、このテーマを設定しました。簡単に会の様子をご報告いたします。

①講演「Petersenの思想 Jena-Planが示唆するもの」

佐久間裕之氏（玉川大学教授）

イエナプランの創始者ペーター・ペーターセン研究の第一人者でいらっしゃる佐久間先生をお迎えして、ペーターセンの思想についてお話ししていただきました。「人間ペーターセンについて」、「ペーターセンの人間観、教育観について」、そして今回の大会のテーマである「ペーターセンが遊びをどのように考えていたのか」について、ユーモアや歌も交えてお話ししてくださいました。

②大日向小学校の紹介

桑原昌之さん（学校法人茂来学園理事・大日向小学校校長）

中川綾さん（学校法人茂来学園理事）

お二人からは、実際の生徒の様子を撮影した動画を交えながら学校の様子が紹介されました。ブロックアワーで個の学びを進める様子や、対話をしながら学び合う様子、そしてお昼ご飯（給食とは呼ばない）の様子などが紹介されました。

③分科会

午後は校内4カ所に分かれて、分科会を行いました。分科会は40分×2回。参加者は各自好きなテーマを2つ選び、会場を移動しながら「遊び」についてさらに学び合いました。4カ所の会場で行われた分科会の登壇者とテーマは以下の通りです。

分科会A 「大日向の「遊び」とそのねっこ」

秋山真一郎さん（大日向小学校）

分科会B 「諸感覚を働かせながら遊び込むことで身に付いた資質・能力
～イエナプランと生活科の実践より～」

橋本靖子さん（公立小学校教諭）

コーディネーター：溝邊和成さん（兵庫教育大学教授）

指定討論者：若木常佳さん（福岡教育大学教授）

分科会C 「あそびの力とネガティブケイパビリティ～子どもの育ちに本当に必要なことは何か」
森澤典子さん（保育士・幼稚園教諭・私塾講師）

分科会D 「第1回日蘭イエナプランアカデミー（2017年）研究発表」

1. 「『日本におけるイエナプラン教育教員研修』の考察と実践」

服部秀子さん（大日向小学校）

協力者：服部剛典さん（トモに創る未来）

2. 「Meaningful Learningのエッセンス」

小森麻友子さん（関西国際学園）

大会当日の運営に関しては、大日向小学校の先生方、イエナプラン教育協会長野（東信）支部の方々にお手伝いをいただきました。ご協力ありがとうございました。また後日、「全国大会の報告」としてより詳しい内容や資料の一部を協会のHPに掲載しますので、ぜひそちらをお読みください。

（報告 山ノ井美美）



新理事・事務局紹介

5月に行われた協会理事選挙を受け、新理事・新事務局による新体制がスタートしています。自己紹介と一言ご挨拶申し上げます。

名前：川崎知子（かわさきともこ）

住んでいるところ：オランダ

参加している支部：千葉（浦安）支部・オランダ支部

生まれも育ちも東京東部(スカイツリー辺り)です。2011年に浦安で始めた千葉（浦安）支部のメンバーからは、この先どこに住んでも「千葉（浦安）支部から出向中」と書くように釘を刺されています。(笑) 2017年からはオランダ在住ですが、もうすぐ日本に帰国予定です。大好きなイエナプランが日本でさらに発展・普及するよう、皆様とともに学び続け、楽しく関わっていきたいです。よろしくお願ひいたします。
(^ ^)

名前：久保礼子（くぼれいこ）

住んでいるところ：福岡県宗像市

参加支部：福岡支部

イエナプランって、何年関わっても新しい発見がある、常に自分自身が問われる、と感じつつ運営に関わらせていただいています。理事二期目となります。新理事、新事務局メンバーを迎えたことで、活動の在り方がすでにあたらしい動きを見せていて、人が集まって何かをすることは本当に興味深いです。最年長、古参メンバーということで、もうしばらく代表を務めさせていただきます。協会の新しいステージに向け、気持ちも新たに取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

名前：土岐幸司（ときこうじ）

住んでいるところ：埼玉県ふじみ野市

参加している支部：埼玉支部

土岐幸司と申します。普段は小さな学習塾を運営しています。小さいのでひとりひとりの生徒の個性や才能、いいところ悪いところを肌で感じてきました。彼らが生まれてきて良かった、楽しい、こうやって生きていこうと思える教育を実践しているだろうかと自問自答していた中で知ったイエナプラン。道しるべと勇気をたくさんもらいました。同じような悩み、思いの方たちとつながり、学びあっていきたいと思っています。宜しくお願ひします。

名前：中川綾（なかがわあや）

住んでいるところ：東京都世田谷区

参加している支部：東京（世田谷）支部・宮城支部

引き続き、理事として活動させていただくことになりました中川綾です。今年は長野県に日本初のイエナプランスクールが開校したスタートの年となりましたが、これからも、イエナプランに興味を持ち学んでみたいと思っている方々と、広げたいと思っている皆さんのが繋がり、共に学び合えるような環境をつくって行けるよう引き続き頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

名前：服部剛典（はっとりたけのり）

住んでいるところ：愛知県名古屋市

参加している支部：愛知（名古屋）支部

事務局に入りました服部剛典と申します。イエナプラン教育は一人一人を尊重しながら自律と共生を学ぶオープンモデルの教育というところがとても素敵なことだと感じています。オープンモデルということは、それに携わる一人ひとりの特性が活かせる可能性が開いているということを考えるからです。事務局のメンバーや皆さんと協力しながら、協会運営に携わっていきます。よろしくお願ひします。

名前：本川良（もとかわりょう）

住んでいるところ：宮城県石巻市

参加している支部：宮城支部

石巻市の東端、リアス式海岸が美しい石巻市雄勝町に震災後新しく開校した雄勝小・中学校に勤務しています。石巻市雄勝町は東日本大震災で大きな被害を受けた地域ですが、そこからまた新しくスタートしようという気概のある町でもあります。小中併設で全校合わせて32名（2019年度）。異年齢で学び合ったり活動したりするのが「当たり前」の学校です。「学校教育目標」を真ん中に、その表す姿を大人も子どもも対話しながら一緒に目指していくが、それは自ずとイエナプラン教育のコンセプトにつながっていくと感じています。公立学校でもできる、公立学校だからできる、を考えながら日々取り組んでいきます。

名前：山ノ井美美（やまのいふみ）

住んでいるところ：東京都小金井市

参加している支部：まだきちんと参加している支部がないのでこれからどこかに入ります

仕事は高校で英語の教員をやっています。2年程前、学校での教育活動がしんどいなと思っていた時にイエナプランに出会い感銘を受けました。また、自分の子供たちにもとてもいいなと思い自分なりに色々と勉強してきました。ですが、一人じゃなくともっといろんな人とつながって学んでいきたいな、そしてもっとイエナプランと深く関わりたいなと思い、協会の仕事をお手伝いさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

名前：若杉逸平（わかすぎいっぺい）

住んでいるところ：愛知県名古屋市

参加している支部：愛知（名古屋）支部

この度新たに理事・事務局となりました若杉逸平と申します、どうぞよろしくお願ひします。私は協会の運営に携わらせてもらうことで、イエナプラン教育を大切に想う全国（全世界・地球全体）の仲間たちと今まで以上に出会い・つながり、イエナプラン教育を通して“共に”教育の可能性をひらいていきたいと考えています。お互いの違いを大切に、「共に話し・共に遊び・共に学び・共に催し」ながら！



旧理事・事務局よりメッセージ

協会の新体制発足に伴い、これまで長い間協会で活動してくださった旧理事・旧事務局の方々からメッセージをいただきました。

【旧事務局 浅野聰子】

協会の運営にあたり、学びの場や繋がりを作る側に立ったり、会員の皆さまの意欲や課題に触れ励まされたり新たに学んだりする機会があり、貴重な経験をさせていただきました。また、事務局のメンバーとは、運営のための真面目な話から他愛ない日常のことまで、たくさんの話をしました。イエナプランの理念をいつも共有しながら活動・生活することで、対話や協働とはどんなものか、その難しさも良さも体験することができたように思います。学校・地域・家庭で、イエナプランからの学びをどう生かすか、今後も皆さんと探求したいです。

【旧理事・旧事務局 田村悠子】

事務局になってから、立場が全然違う人々と、率直に対話をする機会がたくさんありました。私はイエナが大切にしている「対話」が好きです。「違い」や「現状」を諦めず、「さらにその先」を模索しようとする姿勢に良い意味での影響も受けました。事務局での仕事は対話の連続で、時には苦しいこともありましたが、対話を続けて合意していくという経験は、私にはとても貴重なものとなりました。本当にこれまでありがとうございました。これからは、埼玉支部で頑張っていきたいと思います。

【旧理事・旧事務局 幕内那菜】

図書館でイエナプランを知り、「日本イエナプラン研究会」（日本イエナプラン教育協会前身）のHPから問い合わせ、中川綾さんと出会い、ふと気づけば協会理事だった幕内です。事務仕事は苦手ですが、いろんな人と浅く広く深く濃く話す機会に恵まれたことがとにかく楽しく、イエナプランについて多くのことを知ることができるのも面白かったです。

これからも長野支部のメンバーとして関わり続けていきますので、どうぞよろしくお願ひします。

【旧事務局 原田友美】

今年の4月まで、事務局として関わらせていただいた原田友美です。協会の仕事をお手伝いさせていただいたことは私にとって大きな学びでしたが、この4月から大日向小学校でグループリーダーとして勤務をしており、そちらに専念するために事務局をいったん終了させていただくことになりました。今までどうもありがとうございました。イエナプランスクールのグループリーダーという立場から、協会の今後の発展を応援しています。

支部報告（2019年3月から8月の各支部の活動報告です。）

【愛知（名古屋）支部】

「20の原則」を通して学校教育や子育てについて学び合う学習会などを、名古屋市を拠点に愛知県と岐阜県内で開催させていただきました。また7月27日（土）に長野県にて開催された全国大会がきっかけとなり、イエナプラン教育に関心を持つ者同士が今まで以上につながりを広げ支部の活動を行っています。



《活動日》

3月10日（日） Jenaplanイエナプラン教育講座初級編&中級編（愛知県豊田市）

3月17日（日）・6月2日（日）

イエナプラン教育のコンセプト「20の原則」を通して、
教育・子育てを考える@ぎふマーブルタウン子育てカフェ（岐阜県岐阜市）

4月6日（土）イエナプラン教育「20の原則」を読む（名古屋市）

7月15日（月）イエナプラン教育「20の原則」を読む会（岐阜県瑞穂市）

7月21日（日）共育で大切なことって何だろう？（愛知県日進市）

8月9日（金）イエナプランを語り合おう～第1回名古屋pace～（名古屋市）

《今後の日程》

9月8日（日）これから必要な“日本の教育”について考える！～対話からはじまる教育～（名古屋市）

9月29日（日）イエナプラン実践ガイドブックを読み合おう～第2回GEZELLIG名古屋～（名古屋市）

（報告 若杉逸平）

【長野（中信）支部】

長野県の中信地区(松本市、安曇野市など)で勉強会を開いています。公教育を見直すきっかけとしてイエナプラン教育を学んでいます。池田町のNext Ikeda Educationへの協力や共同イベントも予定しています。

《活動日》

3月31日（日）Next Ikeda educationとの合同勉強会（松本市KAJIYA）

6月8日（土）イエナプラン教育勉強会（松本市中央公民館 M ウィング）

《今後の予定》

9月15日（日）イエナプラン教育勉強会（場所未定）

9月21日（土）イエナカフェ@池田町

（報告 瀧澤輝佳）

【福岡支部】

《活動日》

3月17日（日）『多様な学び実践研究フォーラム』分科会参加・ブース出展

7月13日（土）第37回学習会 トークセッション

「オランダで生活して考える、日本の教室・学校・地域がこうなったらしいな
～イエナプラン教育を軸に考える～」

本部で毎年関わっている『多様な学び実践研究フォーラム』が初めて九州で開催されたため、今回は支部メンバーらとブースを出展し、分科会『ニュージーランドとオランダの教育とオルタナティブスクール』に登壇しました。シュタイナー教育やイエナプランの事例を通して、日本の公教育について考える良い分科会になりました。

また7月には、現在オランダで教員養成学校で学ぶ準備を進めている金澤克宏さん（支部メンバー、TFJのOB）の一時帰国に合わせて、金澤さんのお話を中心に、ここでも日本の公教育について考える学習会を持ちました。若い先生方が多く集まってくれる会となりました。



2019年7月13日 学習会

《今後の予定》

10月27日（日）14:00～ 学習会「学びについて考える」（九州大学西新プラザ）

（報告 久保礼子）

【長野（アルプス）支部】New !

《活動日》

5月19日（日）勉強会 イエナプランの基礎

8月10日（土）勉強会 原則と規則の違い

9月17日（火）勉強会 DVD紹介動画を見てから話そう

アルプス支部は、5月19日に立ち上りました。学校と地域の架け橋となる活動ができればと思っています。

《今後の予定》

10月12日（土）勉強会 ふれあいパーク乗鞍 10時30分～12時

（報告 セツ・マカリスター、中川綾）

【オランダ支部】

オランダ各地に住むメンバーで運営しています。小さな国とはいえ九州ほどの大きさで度々直接顔を合わせるのが難しいので、最近はおもにオンラインでのイベント、ミーティング開催をしています。オランダ全国からだけでなく、日本からも参加可能なイベントもやり始めました！

《活動日》

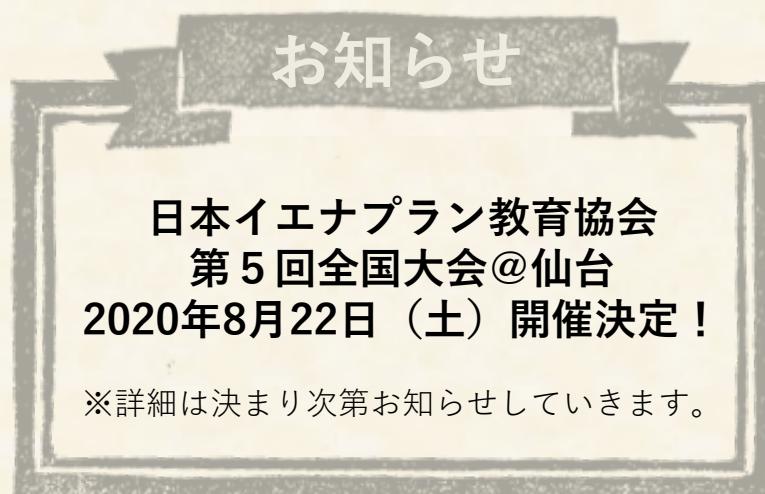
= イベント =

- ・オランダの性教育 おしゃべりカフェ@オンライン
 - 第1回 4月26日（金）計3名
 - 第2回 5月3日（金）計6名
 - 第3回 7月20日（土）計7名
- ・日本 × オランダ 性教育のイマとミライ（オンライン）
 - 8月11日（日）計14名（日蘭両方を含む）

《今後の予定》

De kring vol.6 が近日中に発行予定です。あらゆるテーマで今回も取り上げていますが、おしゃべりカフェ3回分の詳細も掲載されますので、気になる方はお楽しみに！イベントについては未定ですが、決まつたらFacebookのオランダ支部グループページなどでお知らせします。

（報告 山地芽衣）





各支部のご案内

- ・ 北海道（帯広）支部 … hokkaido-obh@japanjenaplan.org
- ・ 宮城 支部 … miyagi@japanjenaplan.org
- ・ 埼玉 支部 … saitama@japanjenaplan.org
- ・ 千葉（浦安）支部 … chiba@japanjenaplan.org
- ・ 東京（江東）支部 … chiba@japanjenaplan.org
- ・ 東京（大田）支部 … chiba@japanjenaplan.org
- ・ 東京（世田谷）支部 … info@japanjenaplan.org
- ・ 神奈川（湘南）支部 … syounan@japanjenaplan.org
- ・ 長野（東信）支部 … toshin@japanjenaplan.org
- ・ 長野（中信）支部 … matsumoto@japanjenaplan.org
- ・ 長野（南信）支部 … nanshin@japanjenaplan.org
- ・ 長野（アルプス）支部 … alps@japanjenaplan.org
- ・ 愛知（名古屋）支部 … nagoya@japanjenaplan.org
- ・ 関西（大阪）支部 … kansai@japanjenaplan.org
- ・ 福岡 支部 … fukuoka@japanjenaplan.org
- ・ オランダ支部 … oranda@japanjenaplan.org

※ 千葉（浦安）支部、東京（江東）支部、東京（大田）支部は共同運営しています。

